

2019（令和元）年 10 月 8 日

全附属「学校運営についての調査・2019（令和元）年度」のお願い

全国国立大学附属学校連盟
学校運営委員会
委員長 福地 龍郎

秋冷の候、貴校園におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。東京オリンピック・パラリンピック2020を翌年に控え、世界陸上やラグビーワールドカップなど、スポーツの祭典が華やかなこの時期、運動会や文化祭の開催に追われ、日々お忙しくお過ごしのことと存じます。

昨年11月24日に、「第3回これからの附属学校のありかたを考える協議会」が開催され、附属学校園がこれから進むべき道を考える実質的な協議の場となりました。協議会では、「附属学校園の活動の目的は附属の外が良くなることであり、附属学校園は子どものいる研修センターである」という一つの方向性が示されました。一方、全国国立大学附属学校連盟学校運営委員会では、全国の附属学校園の現状を把握し、現在直面している課題を明らかにすると共に、各附属学校園が大学や学部と協議を行う際の参考となり、全国の附属学校園にとって互いに参考となる情報を得るという目的から、「学校運営についての調査」を定期的実施しております。附属学校園が置かれている状況は今後益々厳しくなることが予想され、全国の附属学校園で情報を共有することが重要であると考えられることから、今年度も引き続き同調査を実施いたしたく存じます。

学校運営委員会では、これまでの調査や日本教育大学協会附属学校委員会による調査を参考として、およそ3年に1度、調査項目のリニューアルを含む大規模調査を実施してきました。2017年度に大規模調査を実施し、2018年度には、附属学校園を取り巻く状況に鑑み、2017年度の調査を基に各附属学校園の取り組みについて調査できるようにし、施設設備や予算等に関する質問510－604を調査から除外しました。今年度は、さらに、教職員等の配置に関する質問201－1及び211－215と長期研修に関する質問431－436を除外いたします。

附属学校園として解決すべき様々な課題が山積していると思いますが、今年度はそれらの課題だけではなく、各校園で取り組み始めたことや工夫していること、未来に向けたビジョン、将来構想など前向きに取り組んでいることなどが共有できるように、自由記述欄に記述できるようにしました。全国の附属学校園が、引き続き様々な改革に取り組みながら、未来へと発展していけるように、大変お忙しいとは存じますが、本調査に御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

●次の実施要項により、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

【調査実施要項】

○各学校の管理職（主に副校園長）が集約して記入をお願いいたします。

○お送りしましたこのファイルの回答用紙に記入し、記入データをメール添付で副委員長（お茶の水女子大学附属中学校副校長小泉薫）宛にお送りください（koizumi.kaoru@ocha.ac.jp）

回答用紙は、必要な場合は、全附連のホームページ（<http://www.zenfuren.org>）からダウンロードできるようにしていますので、ご利用ください。

○送付の際に添付ファイルの冒頭に zenfuren2019 としてその後【学校名】の略を記入して、送付下さい。
（例：zenfuren2019【お茶の水女子大附属中】） なお、メールによる提出がどうしてもご無理な場合は、回答用紙を委員長宛（下記）に郵送またはFAXでお送りください。

○2019（令和元）年度の状況を中心に、必要に応じて平成30年後以前の状況を加えてご回答ください。
なお比較の場合は3年程度以前との比較で記入してください。

○提出期限 2019（令和元）年11月8日（金）

○問い合わせ先（郵送またはFAXの場合の宛先）

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学附属中学校 小泉薫（全附連学校運営委員会 副委員長）

電話：03-5978-5864／FAX：03-5978-5863 E-mail：koizumi.kaoru@ocha.ac.jp